

# たまねぎレポート【第417号】



令和4年7月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

6月の天候は、東・西日本の気温はかなり高く、下旬は記録的な高温となった。西日本の太平洋側の降水量はかなり少なく、東日本の日本海側と西日本の太平洋側の日照時間はかなり多かった。北日本の降水量はかなり多く、沖縄・奄美の降水量は多かった。7月は、今年の梅雨明けが早く、全国的に気温の高い日が多く、北海道では、雨天・曇天の日が多い。

気象庁の8～10月の3か月予報では、平均気温は、北日本で平年並み亦是高い確率ともに40%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

10月、北日本と東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。

## 野菜の市場概況

建値市場の6月の野菜の販売量は、206,738トン前年比98%（前月比977%）、平均単価はkg ¥254前年比103%（前月比97%）。市場別には多少のバラツキがあるが、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価では、札幌市場の販売量は前年比88%、平均単価はkg ¥260前年比112%。東京市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥267前年比102%。名古屋市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg ¥248前年比104%。大阪本場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥251前年比103%。福岡市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥186前年比100%となっている。

建値市場の6月の玉葱の販売量は18,808トンで前年比86%、（前月比85%）、平均単価はkg ¥205前年比205%（前月比85%）。販売量が前年比3%減で平均単価は前年比2.6倍になっている。市場別では、札幌市場の販売量は1,425トン前年比60%、平均単価はkg ¥234前年比252%。東京市場の販売量は8,478トン前年比92%、平均単価はkg ¥210前年比198%。名古屋市場の販売量は4,313トン前年比83%、平均単価はkg ¥189前年比208%。大阪本場の販売量は2,771トン前年比94%、平均単価はkg ¥207前年比198%。福岡市場の販売量は1,821トン前年比89%、平均単価はkg ¥191前年比193%となっている。

日本農業新聞社の集計値では、主要7地区の代表卸7社の6月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が92,662トン前年比3%減、平年(過去5年平均値)比5%減。平均単価はkg¥152前年比3%高、平年比8%高となっている。販売量が前年比増の品目は、トマトが前年比15%増、ブロッコリーが11%増、ナスとピーマンが9%増など8品目。販売量が前年比減の品目はタマネギが前年比18%減、ニンジンが13%減、結球レタスが8%減、キュウリが5%減など5品目。前年並みはハクサイ1品目となっている。前年比高となった品目はタマネギがkg¥181で前年比103%高、ニンジンがkg¥125で19%高、ネギがkg¥407で15%高など4品目。前年比安の品目は、ジャガイモがkg¥103で前年比34%安、ピーマンがkg¥336で23%安、キュウリがkg¥185で21%安、ナスがkg¥302で11%安など8品目。ダイコンのkg¥89、ホウレンソウのkg¥467は前年と同値となっている。

東京都中央卸売市場の6月の野菜の入荷量は、115,348トン前年比99%(前月比96%)。平均単価はkg¥267前年比102%(前月比98%)で入荷は前年比微減、前月比減。価格は前年比高、前月比安となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、ダイコンが前年比113%、キャベツが105%、ナスが103%、ピーマンが102%など4品目。入荷が前年比減の品目は、サトイモが前年比80%、ナマシイタケが84%、ニンジンが87%、キュウリ・タマネギが92%など10品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg¥210で前年比198%、ニンジンがkg¥154で135%、ネギがkg¥433で118%、トマトがkg¥334で111%など8品目。前年比安の品目は、バレイショがkg¥121で前年比68%、キュウリがkg¥220で83%、ピーマンがkg¥427で87%など7品目となっている。

## 東京都中央卸売市場の6月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	115,348	98.9	96.4	267	102.1	97.8
た ま ね ぎ	8,478	92.4	85.5	210	197.7	81.7
キ ャ ベ ツ	16,718	107.9	93.7	84	97.1	84.9
は く さ い	6,087	98.4	102.8	70	98.2	94.6
だ い こ ん	6,802	113.3	86.9	105	96.9	90.5
に ん じ ん	5,547	87.1	71.7	154	125.0	114.1
ば れ い し ょ	7,425	95.2	83.2	121	68.3	73.8
レ タ ス	7,505	93.6	113.6	153	103.5	91.6
ト マ ト	7,249	100.0	88.2	334	111.2	105.7
ね ぎ	3,471	96.2	94.9	433	117.5	106.1
か ぼ ち ゃ	2,034	82.4	108.5	269	134.1	104.7
な が い も	901	94.8	96.9	289	94.0	89.1
れ ん こ ん	113	73.9	65.7	1,476	125.7	144.3
に ん に く	185	107.8	65.4	899	86.5	94.4

### 玉葱の概況

#### 需要(市場)の動き

##### 東京市場

東京都中央卸売市場の6月の玉葱の入荷量は8,478トン前年比92%(前月比85%)。主力は佐賀物と兵庫物で佐賀物の入荷量は2,977トン前年比81%、占有率は35%前年比15ポイントダウン。兵庫物は2,123トン前年比1

02%、占有率は25%前年比2ポイントアップ。香川物は842トン前年比154%、占有率は10%前年比4ポイントアップ。栃木物は510トン前年比93%、占有率6%で前年と同じ。愛知物は423トン前年比97%、占有率5%で前年と同じ。総平均単価はkg¥210前年比198%(前月比82%)。産地別では、佐賀物はkg¥223前年比212%。兵庫物はkg¥226前年比199%。香川物はkg¥221前年比202%。栃木物はkg¥182前年比190%。愛知物はkg¥175前年比187%となっている。

7月に入ってから、入荷は意外に順調で、需要は高温と高値反動で動きが鈍く、品余り傾向となり、高値が少なく安値が多い軟調相場が続いた。最盛期を迎えた栃木物は、品質的に今ひとつで安値ながら売れ残りが発生した。昨今では、主力産地の出荷が減少し、品薄状態で相場は堅調に転じている。北海産の入荷が本格化する8月中旬までは、品薄高となりそうな気配である。

7月1日～20日の玉葱の入荷販売量は5,225トン前年比81%、平均単価はkg¥166前年比138%。主力は佐賀ものから兵庫物に替った。産地別では、兵庫物の入荷は2,305トン前年比82%、平均単価はkg¥175前年比145%。佐賀物は1,068トン前年比69%、平均単価はkg¥173前年比139%。香川物は286トンで前年比62%、平均単価はkg¥191前年比154%。栃木物は140トン前年比88%、平均単価はkg¥151前年比138%となっている。

## 名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の6月の玉葱販売量は4,313トン前年比83%(前月比96%)で5月に続き前年比、前月比とも減となっている。主力は兵庫物で、販売量は2,052トン前年比112%、占有率は48%前年比13ポイントアップ。愛知物は1,578トン前年比61%、占有率37%前年比13%ダウン。北海物

は477トン前年比75%、占有率は11%前年比1%ダウン。ニュージーランド物は112トン前年はなし。総平均単価はkg¥189前年比208%(前月比86%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥220前年比198%。愛知物はkg¥187前年比223%。北海物はkg¥64前年比103%。ニュージーランド物はkg¥212前年は販売なしとなっている。

7月に入り、愛知物が終了し、兵庫物主力の販売となったが、日量30~40トンの少ない入荷も、荷動きが鈍く捌き切れずに、売れ残り在庫が増加した。富山物も日量10トン程度の入荷が続いたが、品物もそこそこで割安の販売となった。高値反動と高温に依る売れ行き低迷を実感させられた。昨今の市場は、入荷量に変化はないが、荷動きが回復し、高値主力の販売となっている。富山物は終了間近となり、玉葱相場は回復基調にある。北海物の販売は8月5日頃からになる。と見ている。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の6月の玉葱の販売量は、2,771トン前年比94%(前月比84%)で前年比減、前月比大幅減となった。梅雨入りは平年より1週間遅く、梅雨明けは平年より2週間早く、降雨少なく高温が続き、消費は鈍化した。産地別の販売量は、兵庫物が1,905トン前年比103%、占有率69%で6ポイントアップ。佐賀物は477トン前年比71%、占有率17%で前年比6ポイントダウン。愛媛物は224トン前年比133%、占有率8%前年比2%アップ。大阪物は76トン前年比82%、占有率3%で前年と同じ。総平均単価はkg¥207前年比198%(前月比84%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥214で前年比192%、佐賀物はkg¥211前年比216%。愛媛物はkg¥175前年比231%。大阪物はkg¥187前年比204%となっている。

7月に入って、入荷は少なめだったが、酷暑と高値疲れで客足が伸びず、軟

調相場が続いた。市場の荷受けも仲卸も、先行きの品薄を予見して、ストックが意外に多くなったにも拘わらず、荷動きが鈍化し、流通段階での在庫が増加した。入荷は予想外に順調で、品余り現象となった。月半ばになっても荷動きが回復せず、産地に対して荷動き鈍く相場は安い。と通告するも入荷は減少せず、在庫増となった。昨今では、市場内の荷動きに大きな変化はないが、転送需要が活発化し、相場は堅調に転じている。

7月1日～19日の玉葱の入荷販売量は1,781トン前年比70%、平均単価はkg¥159前年比147%。産地別では、兵庫物は1,503トン前年比79%、平均単価はkg¥169前年比146%。和歌山物は134トン前年比109%、平均単価はkg¥78前年比190%。愛媛物は117トン前年比58%、平均単価はkg¥131前年比170%。となっている。

### **福岡市場**

福岡市中央卸売市場の6月の玉葱販売量は、1,821トン前年比89%(前月比88%)で、前年比、前月比とも減となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,143トンで、前年比74%、占有率63%前年比12ポイントダウン。長崎物は196トン前年比209%、占有率11%前年比6%アップ。中國物は203トン前年比139%、占有率11%前年比6ポイントアップ。北海物は137トン前年比87%、占有率8%で前年と同じ。福岡物は114トン前年比100%、占有率6%で前年と同じ。総平均単価はkg¥191前年比193%(前月比88%)で前年比高、前月比安となっている。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥218前年比216%。長崎物はkg¥146前年比197%。中國物はkg¥121前年比139%。北海物はkg¥95で前年比106%。福岡物はkg¥232前年比239%。となっている。

7月に入り、少なめの入荷がつづいたが、荷動きも左程悪い訳ではなく、相場は弱保合ながら、需給は概ね均衡していた。終盤期を迎えた佐賀産地では、

JAよりも商系筋の価格要請が強く、遣りづらい状態が続いた。長崎物は品質良好で、割高販売に努めた。北海産の作柄が順調と聞いているので、在庫を抱えずに販売した。此処に来て、荷動きは良くなったわけではないが、佐賀物の在庫減に加え、北海産は天候不順で、出荷が後ズレするとの情報で、府県産地が強気になっていることで、意図的に値上げ販売に努めている。北海物の販売は8月5～8日の予定だが、今後の天候次第となっている。

7月1日～19日の玉葱販売量は1,133トン前年比82%、平均単価はkg ¥163前年比152%。入荷は前年比減、単価は前年比高だが、市況は値下り傾向で前月同期比85%となっている。

#### 7月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

##### 【札幌市場】 入荷52トン 弱保合

北 海 20kgNT2L ¥2,900～2,800、 L大 ¥3,100～3,000、 L ¥2,900～2,800、  
M ¥2,600～2,500。

佐 賀 20kgDB2L ¥4,000～3,000、 L ¥4,000～3,000、 M ¥4,000～3,000。

##### 【太田市場】 入荷142トン 保合

佐 賀 20kgDB2L ¥2,700～2,500、 L ¥2,800～2,600、 M ¥3,000～2,800。

兵 庫 20kgDB2L ¥2,800～2,600、 L ¥3,000～2,800、 M ¥3,000～2,800。

##### 【名古屋北部市場】 入荷72トン 保合

兵 庫 20kgDB2L ¥2,600～2,500、 L ¥3,100～3,000、 M ¥3,000～2,900。

富 山 20kgDB2L ¥2,500～2,400、 L ¥2,800～2,700、 M ¥2,700～2,600。

##### 【大阪本場】 入荷135トン 保合

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300～1,200、 L ¥1,500～1,400、 M ¥1,500～1,400。

兵 庫 20kgDB2L ¥2,500～2,400、 L ¥3,000～2,800、 M ¥3,000～2,800。



## 【福岡市場】入荷159トン 強保合

佐 賀 10kgDB2L ¥1,600～1,500、 L ¥1,600～1,500、 M ¥1,600～1,500。

佐 賀 20kgDB2L ¥3,200～3,000、 L ¥3,200～3,000、 M ¥3,200～3,000。

長 崎 10kgDB2L ¥1,800～1,500、 L ¥1,800～1,500、 M ¥1,800～1,500。

## 供給(産地)の動き

3～5月が出荷期となる府県産の極早生・普通早生は、破格の市況高となったことを受けて、続く6～7月出荷の中生・晩生も高値に釣られて前進化した。全国的には、前年の豊作に比べ減反・減収で生産減となったにも拘らず、出荷ペースは予想以上に前進化し切り上がりが早くなった。秋作の北海産は豊作型で、出荷は8月初めから本格化する。との産地情報を受けた府県産地は、在庫減にも拘らず、出荷を焦り6～7月の出荷は予想を大きく上回り、市況は軟化した。此処に来て、品薄ムードが台頭し出荷は抑制傾向にある。

他方、北海道では、7月の天候は府県の梅雨の戻りの様な雨天曇天が続き、日照不足で球肥大が停滞している。産地を一巡した限りでは、極早生は収穫期に入っているものの、球肥大は前年に比べやや小振りで、1週間程度遅れている。普通早生も、生育遅れで球肥大は昨年と比べるとやや小振りである。葉鞘は徒長傾向でやや細い。既に一部で収穫が始まっているが、泥んこで長玉が多い。此の先、中晩生は天候が回復し、好天候に恵まれれば、豊作が期待されている。

## 府県産地

佐賀産地では、高値市況を反映し、中晩生も出荷は前進化して、生産者段階での短期貯蔵(PCコンテナ詰め、ハウス乾燥)は例年に比べ半減し、既に出荷は終盤を迎えている。JA・商系の除湿乾燥物も出荷は終了間近である。吊り

玉葱は青切り出荷が有利とのムードが支配し、極端に減少している。為に、紐付き以外の在庫は殆どなく、玉葱の出荷は今月末でほぼ終了する。切り上がりは、例年に比べ半月以上早い。北海産の豊作情報で、生産減の玉葱の出荷が前倒しとなったことが、手仕舞いを早めたと言える。

中晩生の主力産地である兵庫県淡路島でも、出荷ペースは平年比2～3週間早く、予想以上に前進化している。梅雨が短く好天に恵まれたことで、中晩生の収穫が順調に進んだことも、出荷の追い風となった。更には、北海産が豊作で出荷は前進化するとの情報も前進化に影響した。冷蔵入庫は数量確保に専念した業者もあり、前倒しの入庫となり、早期に始まり早期に終わる状況にある。既に前年並みの入荷となった商系筋もあるが、最終在庫量は前年の60～70%にとどまる予想である。今年の中晩生は、2L級がすくなく、球締り球揃いが良好で、商品化率は高い。産地相場は在庫減を背景に生産者切り落とし20kg ¥200程度値上がりしている。

### **北海道産地**

道庁の出先機関の7月15日現在の生育調査によると、石狩地区の草丈は84.1 cmで平年比9.1 cm長い。葉数は10.2 枚で平年並み、葉鞘径は21.7 mmでやや太い、球径は4.6 cmでやや太い、生育は平年比3日進んでいる。空知地区の草丈は84.7 cmで平年比3.9 cm長い、葉数9.4 枚でやや多い、葉鞘径は20.3 mmで平年並み、球径5.2 cmで平年比0.5 cm大、生育は3日早い。上川地区の草丈は92.3 cmで平年比7.3 cm長い、葉数9.3 枚で平年並み、葉鞘径22.3 mmでやや太い、球径5.5 cmで平年比1.3 cm太い。生育は2日早い。オホーツク地区の草丈は79.6 cmで平年比91%、葉数9.6 枚で平年比93%、葉鞘径20.9 mmで平年比95%、球径5.4 cmで平年比113%。生育は平年比3日早い。と報告されている。

## 輸入動向

6月の輸入は速報値で、33,189トン前年比160%。日本マーケットの高値を反映して平成29年以来6年ぶりの輸入量となった。価格も過去に例を見ない高値となっている。価格的にはかなりばらつきがあり、平均値は入手していない。国別数量は、主力の中国が26,159トン前年比133%。ニュージーランドが5,853トン前年比650%。オーストラリアが1,163トン前年比731%。となっている。

## 8月の市況見通し

府県産の前進化で、いずれの産地も切上がり、半月以上早まり、北海産とのバトンタッチに一時的に空白が生じる可能性がある。現在、市場価格は値下りしているものの、平年よりも大幅な高値水準にあり、府県産と北海産の間に端境期が生じて、北海産の作柄が平年作を下回らない限り、順調な出回りとなり、短期間で解消されると見ている。北海産の極早生の作付は前年比57haの減反となっていることもあり、北海産の出荷が本格化する月半ば(盆)までは、堅調相場が続くと予想している。例年、盆前から需要は上向きになり、需給バランスは改善される。今年も8月に入れば、盆需要が追い風となり、荷動きが好転し、品薄高になる可能性が高いと推測している。今月の北海物の市場相場の高値は20kg ¥3,500~3,000と見ている。(笹野敏和記)